

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年10月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	469720022
法人名	有限会社 南の太陽
事業所名	グループホーム 南の太陽
所在地	鹿児島県肝属郡東串良町新川西1356番地 (電話) (0994) -45-7373
自己評価作成日	令和3年9月28日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様のADLが年々低下していく中、職員がその人に合った実践しております。それぞれの思いや言葉を汲み取り、可能な限りお応えしております。

・医療の連携では、当法人の訪問看護師の毎週の訪問により体調報告共有を円滑に行っています。また、月1回の主治医による往診者様の状態等を報告し体調の変化にも対応できるように努め入っております。

・当施設の近くに河川もあることから、年2回の避難訓練を行いことなく利用者様の安全安心を確保できるよう対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、東串良町役場から数km離れた柏原海岸に近い自然豊かな環境に、平成26年8月に開設されている。広い敷地に同法人の住居型グループホームやデイサービス、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所が併設されている。秋祭り、職員研修、ボランティアの慰問等は合同で実施する等、地域と連携が図られている。住居の周辺は、広々とした田園風景が望め、自然の風景を楽しむ、穏やかにのんびりと暮らせる住環境である。

理念は、契約時に重要事項説明書で目的などを説明し、その実現や家族、地域の結びつきを意識したもので、毎年、職員全員が「太陽の笑顔」をキャッチフレーズがあって、「太陽のような笑顔で気持ちに寄り添った“地域”で安心して過ごせる“あなた”と“私”の時間をつくる」といった目標を掲げて年度末に評価し、次に向けて取り組んでいる。

利用者の要介護度も高くなり食事介助の方が多いが、食事形態がしやすく、安心して食事を楽しんでもらえるよう法人の栄養士が提供する。食物繊維を多く摂取し、腸内環境を整えられるよう行事食や手作りのおやつ作りをおこない季節感や誕生会のイベントなどを行っている。おやつ作りには、利用者も参加し残存能力が発揮できるようにしている。

【事業所記入）】

ケアを皆で考え実
りの要望や意見に

周管理の徹底や情
や薬剤師とも利用
具院の予防を行っ

災害時にも慌てる

【関係機関記入）】

然豊かな農村地域
宅型有料老人ホー
設され、防災訓
るなど協力体制が
用者は四季折々の
る。

人らしい暮らしの
員で話し合われた
り添う心、住み慣
大切にすると
る。

産を工夫して嚥下
養士と相談し食事
るよう調理をし、
／トなどを楽しん
るよう取り組んで

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者様に対して職員がどのように接していくべきか、地域との結びつきをどのように大切にしていくかを職員が考え理念を掲げている。	理念は、リビングや相談室などに掲示されている。毎年、職員全員で話し合われたキャッチフレーズがあり、理念とともに共通認識が図られ理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の知人の方の訪問や地域の行事に参加、見学をしている。また、隣接するデイサービスや有料老人ホームの利用者とも交流をしている。	新型コロナウイルス感染拡大予防のため、地域への不要不急の外出を制限しているため、地域との関わりが薄い。来客もほとんどなく電話などで情報の共有を図り感染症収束後の活動について準備を始めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症カフェの開催場所を提供し、その際に地域の方々へお話をしたりボランティアや慰問をした際に認知症への理解を呼び掛けています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症が流行し、現在は書面でのみの開催としている。	管理者は、家族に会議録や毎月の広報誌を送付して事業所の支援状況や利用者の暮らしぶりなどについて報告している。今後、家族に会議の必要性について説明し会議参加を促す予定である。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指定更新や介護保険更新時などの際に町役場へ出向いて助言等をもらい連絡を密にしている。	町役場の職員や福祉事務所とは日常的に連絡や相談などをおこない、面談や電話などで指導や助言を頂戴している。包括支援センターとは、認知症カフェの取り組みについて連携し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1度の身体拘束委員会を開催している。また、日頃の業務の中や職員会議等で拘束のないケアについて協議をしたりしている。特に言葉の拘束にはその都度、協議指摘をし合いながら改善に努めている。	身体拘束等適正化を図るための指針が整備されており会議は、3カ月毎に開催され具体的に事例を挙げて解決などを話し合ったり身体拘束をしないケアについて取り組んでいる。また、年3回内部研修を実施、カンファレンスをおこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を開き繰り返し学んでいる。報道等で取り上げられた際には職員と話をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援者がいないこともあり学ぶ機会がないが、今後研修等あった際は参加していく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談、入居時と時間をかけ説明している。また、相談の際には本人の現在住んでいる場所へ出向くようにしている。介護保険改定時には説明を書面にて行う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員ともに日頃から利用者様やご家族との良い関係作りに努めている。電話や面会時に意見や要望をお聞きしています。	家族とは、電話やメールでやりとりし利用者の生活状況を知らせ、意見や要望を聞くようにしている。家族からは、職員に対し労いの言葉が聞かれる。職員は、6カ月毎にコロナウイルス感染症会議を実施し対策を講じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課時の面談や、必要に応じた個人面談を実施し、職員の要望や意見について話をする時間を設けています。	人事考課システムがあり、年2回面談をおこなっているが、職員からは人間関係についての相談が多く、管理者は職員が互いの立場を思いやり、職務が遂行できるよう努め職場環境が改善できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、個々の現状と目標管理を行い努力や実績などを踏まえ評価している。また、評価によって昇格や昇給等も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内や法人内、外部研修への参加受講の機会を設けている。全職員の知識向上できるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内で開催された意見交換会への参加を行っている。他施設の研修会や医療機関主催の認知症研修にも積極的に参加しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境での生活による精神的な不安や戸惑いを理解しながら入居前に各関係者より情報をもらいつつ時間を掛けながら本人の言葉を傾聴しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望など気軽に話ができる環境を整え十分な時間をかけ話を伺っています。身体的、精神的な不安を軽減し今後の関係につながっていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や見学の際に、本人や家族に何が必要で何を望んでいるかを引き出し取り入れるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様の関係性ではなく家族として接することが理想である。人生の先輩である利用者様から昔ながらの知恵や習慣なども聞きながら何でも言ってもらえる関係性を築いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行している新聞や面会時や電話連絡、SNS等を使い日々の様子を伝えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ流行前には近隣の知人の方の訪問面会や、地域のお店への買い物等での外出を行っていました。	入居前の生活歴や家族情報を参考にしたり、散歩や買い物、外来受診、地域行事、自宅訪問など家族に協力をいただきながら馴染みの関係を続けてきたが現在は自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士を近くの座席に移動したりしています。人との関わりが苦手な方が多くいるため個別に接する時間を多くしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了していても、当施設で協力できることは率先している。町内でお会いした際には声を掛けて頂いたりして近況報告をして下さります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアの関りから、利用者様の日課となることへの取り組みや表情や所作で思いや暮らしの希望の把握に努めています。	朝礼・昼礼や申し送りノートを活用し情報を共有し、月末の職員会議にて職員が意見交換して本人の思いや意向について把握し話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供をもとに利用者様と日々接する中で一人ひとりを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様が今できること、必要としている事の把握、見極めをして申し送りノート等で情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望、家族へ生活状況の説明、要望を聴取し関係職種と共有しながら具体化した内容の計画を作成しています。モニタリングに関しては3カ月に1度をめどに行っていますが、状態に応じてその都度見直し作成しています。	介護計画書については、電話でアセスメントやモニタリング結果を踏まえた目標やサービス内容を話し合い、自立に向けた本人らしい暮らしの実現について検討したのち家族に説明し、面談にて交付している。定期的にモニタリングを実施、計画の見直しも柔軟におこなっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態の変化や職員の気づきなど個々の生活日記や申し送りノートに記入しさらに昼礼等で口頭にて申し送りを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の個々のかかりつけ医で継続し往診依頼しています。急な病院受診についても家族の状況に配慮しながら支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ流行前には、保育園児との交流や地域婦人会のボランティア受け入れ、認知症カフェの開催場所提供等を行っていました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望する医療機関にて往診や受診を定期的に行っています。訪問看護師による週1回の健康管理も行われています。	本人や家族が希望する主治医となっており、隔週の訪問診療や月1回の外来受診、法人の訪問看護師の定期訪問、薬剤師などと医療連携が図られ、緊急時など適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による体調管理を行ってもらい、法人内の看護師と情報共有をし連絡を密にしながら緊急時や状態変化等早期に対応できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要となった場合には職員も立ち合いをし施設での生活歴等をお伝えしています。入院中もご家族や医療機関へ状態等を聞き連絡を密にしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人とご家族へ見取りの意向を説明し書面にて同意をもらっています。また、1年置きに看取り意向確認書の取り直しを行っています。	契約時、「看取りの際の急変時対応について」にて書面を用いて説明をおこない、毎年度、意思確認をおこなっている。夜間は、看護師へ連絡し必要に応じて主治医に相談し、重度化した場合は、できる限り本人や家族の希望に沿うよう取り組んでいる。過去に看取りの経験もあり柔軟に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてはマニュアル作成をし施設内研修にて繰り返し確認を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災避難訓練を実施しています。隣接する有料老人ホームと協力をもらい夜間想定での訓練も実施しています。 台風接近している際には、こまめに情報を確認し職員の人員体制も整えています。	現在は、事前に訓練の実施を消防署に届け出て訓練後報告し、指導や助言をいただくとともに訓練後の反省点や課題などを職員全員で話し合っている。 昨年、台風接近時、町役場へと避難した経験を活かし自然災害の避難についても準備を怠らず慎重に避難決定をおこなうよう検討した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、言葉遣いや声掛けの仕方に十分に気を付けています。利用者様個々に合った声掛けの仕方等で尊厳を損ねることのないようにしています。	利用者の尊厳やプライバシー確保については、研修の実施やケアの振り返り、意見交換等を行って、身体状況や生活習慣に配慮した適切なケアの実践に努めている。利用者ケアは、本人の自尊心や人格に配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本は、利用者様にレクレーション活動等の参加の決定などしてもらっています。思いや選択を自己決定できるよう促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合わせて支援をしていますが、時には職員の都合に手希望に添えないこともあります。性別、年齢、身体状態にも配慮しながら暮らしを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪を希望される利用者様には訪問美容師に依頼しています。衣替え等の時期にはご家族様にお願いをし季節に合った衣類を持ってきていただきたいと思います。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や月2回のお菓子作り、誕生日会のケーキ作りなどを行っています。お菓子作りに関しては簡単な作業のお手伝いをお願いしています。	法人の栄養士が作成したメニューであるが、料理の温めや炊飯を職員が行い食事を提供している。手作りのおやつや季節の行事食、誕生日メニューなど嗜好を凝らし食事形態や好みに配慮して食事が楽しめるよう工夫している。重度化もあり、食事介助の方が増えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量や、好き嫌い、食事形態等に考慮しています。食事量や水分量は記録に残し把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員口腔ケアを実施できています。不定期にて歯科衛生士が訪問し口腔内や義歯の状態確認をし、職員へ助言等して下さります。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ADLの低下により、トイレでの排泄が困難になっている方が多いですが、複数人の介助でトイレへの誘導も行うようにしています。	昼間は、排せつのリズムに合わせてトイレ誘導をおこなっているが、夜間は、睡眠を重視しているため朝、おむつ交換をおこなう方も多い。夜間のみポータブルトイレの方もおられ排泄の自立支援もおこなっている。食物繊維や水分摂取に留意し便秘症の改善をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、便秘が続かないように内服薬による調整をしています。また、食べ物や飲み物でも便秘の改善を行うようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の午前中に入浴の支援を行っています。本人の要望や体調に合わせて午後からも実施することがあります。	入浴を好まれない方が数名おられるが、本人の体調確認を十分におこない、必要性に応じて声かけを工夫し、時間をずらしたり入浴を翌日にするなどして無理のない入浴を促し清潔支援をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々がいつでも自由に休息できるように習慣を把握しながら支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬情を保管しいつでも確認、共有できるようにしています。内服薬の変更時は本人の状態も合わせてご家族や訪問看護師へ報告をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり、お盆を拭いてもらったりとできることは役割としてしていただいています。自分の時間を作り、読書をしたりテレビを観たりしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行前には、心身の状態や天候に配慮しながら周辺の散歩や車で地域へのドライブ等を行っていました。現在は室内でできるレクリエーションを実施しています。	利用者は、重度化しており外出の要望は減ってきているが、現在は、感染症拡大予防のためほとんど外出はしていない。墓参りや自宅訪問、行きつけの美容院への外出、家族との外出など、本人や家族の希望や意向を踏まえ無理のない外出を基本的に勧めている。管理者は、感染症の状況を踏まえ外出を緩和したいと検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は制限はしていませんが、職員の判断でご家族へ了承をもらい預かり管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族からの電話連絡や季節に合わせた絵手紙等が送られてきます。その際は折り返しの電話連絡をしたりと行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室や共同スペースは常に清潔を心がけています。週1回のシーツ交換や居室の清掃を行い、また汚染時にはその都度清掃を行っています。排泄臭や感染予防に配慮し消毒や空調管理も徹底しています。	玄関には、入居者の暮らしが垣間見れるように掲示がなされている。テーブルにはパーテーションが置かれ定時に換気をおこない、清掃し役割分担にて消毒を十分におこない感染対策をおこなっている。今年度は、カーテン（防災）をすべて交換した。職員は、利用者がリビングなどで気持ちよく思い思いに過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの近くにソファを配置しテレビ鑑賞をしたりリビングや居室で読書されたりとここに合った自由な時間空間で過ごしていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳部屋とフローリングの2種類の居室を用意してありその方に合った居室を準備するようにしています。また、馴染みのある家具や私物を持ってきていただいています。	居室は、畳とフローリングの仕様になっており、周囲に遮るものがないため眺めのよい景色が望める自然豊かな住環境である。利用者は、使い慣れた品々を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫し家族や職員が寄り添い穏やかに暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングやトイレ、浴室に手すりを設置し、段差や障害物で移動の障害とならないように配慮しています。個々の居室が分かるように名前を掲示しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
		○	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない